キコとおててさん
キコとおててさん
このこそキコです。
キコのとなりにいるのは、おともだちのおててさんです。
「いっしょになにかたのしいことができるかな？」
キコはおててさんにきます。
「なんでもできるよ」
おててさんはこたえます。
「おててさん！おててさん！おそらをとんでみたいな」
キコはおててさんにいいます。
「おそらをとびたいんだね」
おててさんはこうええです。
「わたしがひこうきになるよ。さあ、いまから
いっちょくせんにしゅっぱつだ！」

ひゅーーん！とひこうきはとびたちます。
「おててさん！おててさん！ダンスをおどりたいけれど、おんがくがないの」
キコはおててさんにいいます。
「ダンスをおどりたいんだね」
おててさんはこたえます。
「わたしがピアノをひいてあげるよ」
おててさんは、ぽろんぽろんとピアノをひきます。
「おててさん！おててさん！なにかおいしいものをたべたいな」
キコはおててさんにいいます。
「なにかおいしいものをたべたいんだね。つくってあげるよ」
おててさんはこたえます。
「アップルケーキ、チョコレートケーキ、チーズケーキ、バナナケーキ、どれがいいかな？」
「アップルチョコレートチーズバナナケーキがたべたいな！」
キコはげんきなこえでこたえます。
「もぐもぐもぐ、あーおいしい！」
「おててさん！おててさん！おにごっこをしたいけれど、ひとりじゃできないよ！」
キコはおててさんにいいます。
「おにごっこをしたいんだね。いつもよくあそぼう」
おててさんはこたえます。

「キコ、きみのあたまにタッチしてもいいかな？」
おててさんはキコにたずねます。
「うん、もちろんいいよ」
キコはこたえます。
「きみのはなにタッチしてもいいかな？」
おててさんはキコにたずねます。
「ふふふ、いいよ」
キコはこたえます。

「きみのおててにタッチしてもいいかな？」
おててさんはキコにたずねます。
「うん、いいよ」
キコはこたえます。
「じゃあ、パンツのなかをタッチしてもいいかな？」
おててさんはキコにたずねます。
「だめ！ぜったいにだめ！」
キコはおおきなこえでさけびます。
「よくいったね」
おててさんはキコにいいます。
「だれもキコのパンツのなかをさわることはできないんだよ。それはしたぎのおやくそくできめられているんだ。
もしそれがそのおやくそくをやぶったら、
ほかのひとにはなすんだよ。
ぜったいにないしょにしゃだめだからね」
「おててさん！おててさん！ゆめのくにへいってみたいな」
キコはおててさんにいいます。
「ゆめのくにへいってみたいんだね」
おててさんはこたえます。
「ちいさなベッドによこになって、めをとじて。そうしたら
ゆめのくにへいけるよ」
キコはめをとって、きもちよさそうにゆめのくにへとしゅっぱつしました。
ヨーロッパでは約5人に1人の子どもが性的虐待を含めた性暴力の被害を受けています。この絵本は、子どもに対する性暴力を防止するための「5人に1人」キャンペーンの一環として欧州評議会が制作したもののです。

©2011 All rights reserved
構想：Grey Amsterdam
製作：Not To Scale
イラスト：Punga
御礼：Rikky Schrever and Manon Sikkel

日本語版監訳：見原 礼子
日本語版翻訳協力：長崎大学多文化社会学部 見原ゼミナール・メンバー
日本語版製作：株式会社イーズワークス
これは「したぎのおやくそく」についての絵本です。
この絵本を通して、子どもたちは良いタッチと悪いタッチの違いについて学ぶことができるでしょう。「したぎのおやくそく」についてもっと知りたい方は、以下のURLをご覧ください。

www.underwerrule.net